



朝一小だより

学校教育目標

- ・考える子
- ・やさしい子
- ・たくましい子



活気あふれ、心が躍り、一人一人がより良く生きる学校

Tel.048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

朝霞市立朝霞第一小学校

令和7年3月3日

児童数 593名



民主主義が育つ畑を耕しています

校長 金子 二郎

晴れた日には長袖一枚でも十分な陽気の日もありますが、朝晩は氷点下となり、まだまだ本格的な寒さに戻る日も少なくありません。日本海側など大雪や台風並みの強風といった気象による被害、さらには火災の報道に心を痛めている方も多いかと存じます。保護者や地域の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。



3学期も最後の月となり、どの学年も一年間のふり返りとスムーズに進級・進学するための準備が本格化しています。どの児童も4月から意欲的に挑戦し多くを学び様々な力を身に付けて



てきました。特に仲間と力を合わせ何かを創りだしたり成し遂げたりすることを通して、達成感を味わうことができました。これは学校という集団生活をもたらす大きな特徴の一つです。しかしながら、他者と共に生活を送るのは必ずしも協調的な時間であるとは限りません。意見の対立が表面化することも日常茶飯事です。しっかりと自分の主張を持った上で「言い合い」をすることは重要です。専修大学の岡田憲治教授は「半径5メートルのフェイク論」(東洋経済新報社)の中で交渉することの意義について

次のように述べています。「大切なコミュニケーションにおいては、波打つ心の最中であっても、粘り強く注意を払って、『でも相手にはこんな良いところがあるではないか』と思える心のバッファを必死で維持しなければなりません。大切なことは『言ったこと』そのものではなく、言ったことの『隙間』を、相手の表情や呼吸や体温など、対面で得られるすべてを素材として受け止めることだったのです。(中略)対立が表面化する、葛藤が生ずること自体は極めて健全なことです。(中略)最適解がなく、宙ぶらりんになることに耐えられないと、どうしても強引な言い方とやり方になります。でも、それは開かれた空間でなされるべきであって、多くの人々の目に触れることで関心を高める助けとなったり、もう一步踏み込んで考えるヒントをもたらしたり、言い方を穏やかにする契機となったりもします。そういう相互のやり取りの中で『私たちの中には、わざわざ悪意をもって相手側を不幸にしてやろうなどと思っている人などないのだ』という共有地帯を見出して、暫定的な着地をするのです。すべての決定はしよせん暫定的です。そしてそれを導き出す人間の営為を『交渉』と呼ぶのです。」意見が対立する時、クリアカットにどちらが正しいか決着をつけるのではなく、顔をつき合わせ時間をかけて話し合い、何とか合意に近づけるための場を大切にするという経験は、一小の子供たちの将来にとって必要不可欠なものです。そのためにも大人が、大げさに言えば民主主義の手本を子供たちに示さなければならぬとも感じています。



「意見が対立する時、クリアカットにどちらが正しいか決着をつけるのではなく、顔をつき合わせ時間をかけて話し合い、何とか合意に近づけるための場を大切にするという経験は、一小の子供たちの将来にとって必要不可欠なものです。そのためにも大人が、大げさに言えば民主主義の手本を子供たちに示さなければならぬとも感じています。」



人が意見のために闘うチャンスを持たないならば、意見は存在し続けることはない (トーマス・マン)